

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	産学官が連携し団塊の世代等を対象にICTスキルアップ・グリーンツーリズム経営講座の実践		
法人名	学校法人コア学園		
学校名 ((2) のみ)	唐津コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 門田 章	担当者 連絡先	木原 厚二 TEL(0955)77-1771
<p>1. 事業の概要</p> <p>2007年問題と呼ばれ、大量退職を迎えた団塊世代の人や子育てを終えた主婦等を対象に、再就職する人に向けてのキャリアアップ、起業、生きがい作りに向けた講座を専修学校、自治体、JA、商工会議所、経営カウンセラー等の産学官で、ICTとグリーンツーリズムに絞り、再就職や起業家の足がかりを促す教育プログラムの開発を行う。開発については昨年度までの文部科学省委託事業の成果等を活用する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>(1)ITグリーンツーリズム教育プログラムの開発 実施委員会を開催し、グリーンツーリズムの知識、経営、技術とIT技術の人材育成プログラムを開発した。</p> <p>(2)実証講座の実施 人材育成教育プログラムに基づき、実証講座「ITグリーンツーリズム経営養成講座」を平成19年12月17日から平成20年2月15日まで、9:00～15:00又は16:00(土日祝日は休み)、受講生10名を対象に191時間実施した。</p> <p>(3)達成状況 産学官連携により、人材育成プログラムを開発し、応募者12名中10名を選抜し、実証講座を実施することができた。グリーンツーリズム学習、視察・体験学習は現場で実践されている専門家を講師としてお呼びし、生きた講義を聴くことができた。IT講座は受講生自ら、視察体験から得られた情報をITを駆使し、プレゼンテーションを行えるまでになった。学問としての経営的観点からは講師経歴、講座時間制約により十分とは言えないが、脱落者を出すことなく、当初の講座の目標は達成することができた。しかし、この講座を受講することで、自ら経営や再就職することは簡単ではないが、経営に伴うリスク情報や仕事の機会は提供できた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>この教育プログラムは団塊の世代と子育てを終えた主婦を対象にした、社会で活躍するための必須技術であるITとグリーンツーリズムをテーマに着目し、再就職する人に向けてのキャリアアップ、起業、生きがい作りに向けた講座を開くことができた。この講座のIT活用技術は唐津コンピュータ専門学校で行い、グリーンツーリズムの学習と現地視察・体験は唐津市七山にある(株)キコリななやまが主体に水、温泉、梅、ログハウス、花菜園、産地直売店、ヤマメの養殖の7つをテーマに専門家の生の学習と現地視察・体験を実施することができた。成果としては、①教育プログラムを開発することができた。②脱落者を出すことなく受講生10名全員に対し、実証講義を行うことが出来た。③グリーンツーリズムについて専門家の生きた講義を学ぶことが出来た。④ITを単に学習するだけでなく、ITの基礎を学習し、取材したデジカメを編集する技術とPowerPointを活用したプレゼンテーションを行うなど応用力を付けることが出来た。⑤このような目的に沿った学習を行なうことで、受講生全員が目標レベルに達成することが出来た。しかし、パソコンの検定資格試験は、残念ながら受験希望者がいなかった。これは受験期間が短く、合格レベルに達しなかったことによる。</p> <p>グリーンツーリズムの経営の観点から体系的に専門家から学ぶというよりは、試行錯誤の中で、経験者みずから失敗談、成功談の中から学ぶ学習であったが、振り返ってみて、地に足が着いた学問として学ぶことができ、リスク面や自ら行動する時の切欠になり、相談できる人脈ができた。受講生の中のUターン者1名は、進路に迷いもあったが、受講終了後、決心して地元の友人が経営する農園へ就職することができた。</p> <p>今後、このような教育プログラムを「農業県佐賀」の地域特性に活かし、地元自治体、商工会議所、観光協会、JAと連携して社会人講座や職業委託訓練に提言し、人材育成と地域の振興に役立たせて行きたい。</p>			

③今後の活用

グリーンツーリズム学の入門編として、平日をIT講座に当て、土日をグリーンツーリズム経営講座と体験学習及び、専門家との交流授業に当てる社会人講座に活用したい。

④次年度以降における課題・展開

実証講座で応募に経営養成講座と銘打ったが、経営学としては内容の薄く、過去の経験が中心の内容であった。今後は、講座開始にあたって、準備を取り、問的余裕と内容をもっと深く、1つに集中して行うような講座にしたい。また、応募についても、今回の講師に参加いただいた方々に、消費者に売ると同時に募集を呼びかけ、セット方の販売を行うことを提言して行きたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

- ・海外先進国事例 先進国ではどのような取組みを行い実施しているのかを調査。先進国であるヨーロッパを調査した。
- ・佐賀県の取組み 佐賀県のグリーンツーリズムに対する取組みを調査。佐賀県ですでに取組んでいる事例、これからの対策を元に多方面から調査。グリーンツーリズムに対しての問題点も調査を行なった。
- ・唐津市の取組み 唐津市の調査では観光も含めた調査を行なった。観光とグリーンツーリズムのビジネス、同じ観点から見ると大きな違いがなく両面からみたグリーンツーリズムを調査した。
- ・七山の現状と課題 実際に七山に出向き、経営者や関係者から話を聞く。実際に現場の声、取組みなどを調査した。

②カリキュラムの開発

実施委員会を2回開催し、唐津市七山で実践されているグリーンツーリズムの取組みにどのように参加し、IT技術をどのように使って、提言・発信できるかをカリキュラムにした。

カリキュラム内容

- ・IT技術:WindowsXp、Word、Excel、インターネットの初級、POP、デジカメ編集、PowerPoint、ホームページ作成、PC試験対策
- ・グリーンツーリズム:グリーンツーリズム専門家の実践講座、現地視察・体験学習
- ・ビジネス能力:総合学習(コンセンサス課題学習)、コミュニケーション、SPI、選考に受かるための履歴書の書き方
- ・卒業研究:調査研究、プレゼンテーション実習

③実証講座

募集については、唐津市、唐津商工会議所、唐津農業協同組合、唐津観光協会、(株)キコリななやまの協力を得、主に佐賀県下の新聞と唐津市、一部福岡県、伊万里市の新聞折込広告に掲載した。応募者は団塊世代が2名、子育てを終えた主婦が5名、Uターン者1名、夫の転勤による者1名、純粋にキャリアアップのため2名の計12名であった。説明会を開き、面接による選考試験の結果10名を選抜し、講座を実施した。

講座は平成19年12月17日から平成20年2月15日まで月～金の週5日間、1日約6時間で2ヶ月間、計191時間開催した。講座内容はITの基本操作からWord、Excel、インターネット、デジタルカメラ編集、プレゼンテーション等のソフトウェア活用。グリーンツーリズム、農業、一般経営の学習と農業視察・体験実習を行なった。講座の開催場所はIT講義を唐津コンピュータ専門学校内で、グリーンツーリズム学習は主に(株)キコリななやま様の会議室で行い、現地視察・体験は七山地区の各現場で行なった。講座の締めくくりの卒業研究発表会は、受講生一人ひとりがITを活用し、それまでの現地視察・体験を元に「ななやまのグリーンツーリズム」をテーマにしたプレゼンテーションを行った。

受講者の反応は都市部から故郷であるこの地へ帰ってきた者、農業志望者、唐津市へ移り住んで間もない者、IT技術を活用してキャリアアップしたい者さままでではあったが、グリーンツーリズム学習、現地視察・体験の日を楽しみに講義を受け、それを利用したデジカメ編集やPowerPoint等、講義は毎日活気に溢れていた。

④その他

応募に際し、講座内容から団塊世代だけでは困難な点が多く、子育てを終えた主婦も対象にした。これによって、かなり幅が出来、特にITを学びながら、グリーンツーリズムを学ぶことができ、受講者の要求と一致させることができた。また、グリーンツーリズム講座は、合併前の七山村の時代から、十数年以来の実績ある株式会社キコリなやまの支配人市原義美氏に、多くの助言と協力を得たことが、本プロジェクトの目標を達成することができたと言って過言ではない。IT講座はグリーンツーリズムで得た知識や体験を元に、卒業研究発表会を目標にすることで、技術の習得に集中して授業を受けることができた。